

平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立 湯川 小学校 学級数 14

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標

思いやりの心で ふれあい 高め合う子

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

1 具体的な取組

- (1) 基礎基本の定着
- (2) 学習の場の設定
- (3) 校内研修の充実
- (4) 家庭学習の推進

2 取組の概要

(1)について

- 全国学力・学習状況調査、並びにC R Tを分析し、低正答率の問題について、重点的に指導
- 学習内容の未定着児童への個別指導
- 未定着学習内容の反復練習の強化
- 3～6年算数科授業への重点的なT T配置や少人数指導の計画と実施
- 特別支援員による個別指導（1・3年）
- 外国語活動におけるT T指導

(2)について

- 休み時間・放課後補充学習の実施
- 長期休業中に4～6年を対象とした寺子屋の実施

(3)について

- 「考えを伝え合う言語活動の充実」を研究主題に設定し、表現力の向上を図る
- 授業力の向上に向けた一人一授業公開

(4)について

- 家庭学習のガイドラインの作成と家庭への周知
- チャレンジテストや全国学力・学習状況調査、並びにC R Tの結果における低正答率の問題を朝学習や宿題として取り組ませる

取組の成果と課題等

○ 取組の成果

・ 3～6年算数科授業への重点的なTT配置と少人数指導（習熟度別）の実施
（成果）→学習におけるつまずきの早期発見と学習の定着が図られた。

・ 特別支援員による個別指導の実施（1・3年）
（成果）→特別に支援が必要な子に対する指導により、学習の理解度が増し、落ち着いて学習に取り組む姿勢が育ってきた。

・ 外国語活動におけるTT指導の実施
（成果）→AETや外国語サポーターの他に、外国語活動の専科を置き、担任と連携してTT指導を行っている。指導方法や教材教具の工夫等を行った結果、児童の言語活動における興味関心が高まり、コミュニケーションを図ろうとする態度が身に付いてきた。

・ 休み時間・放課後補充学習の実施
（成果）→学習の未定着内容について理解が深まり、学習への意欲が高まった。

・ 長期休業中に4～6年を対象とした寺子屋の実施
（成果）→補充及び自習学習の場を設定することによって、学習習慣の定着や基礎基本の定着が図れた。

・ 「考えを伝え合う言語活動の充実」を研究主題に表現力の向上を目指し、全員が授業公開を実施
（成果）→児童一人一人が自分の考えをもち、交流を通して考えを深めることができるようになった。

・ 家庭学習の手引き「絆（きずな）」を作成し、家庭へ啓発
（成果）→発達の段階に応じた家庭学習の取組について家庭へ周知され、学習習慣の定着が図られつつある。
年度末に家庭学習「絆」の評価を行い、成果や課題が明確になり、次年度の方角性が明らかになった。今後とも、より一層、家庭への啓発を図っていきたい。

○ 教育課程検証の方法

・ 学校評価の項目を保護者、教員、児童でおおよそ同じ項目として、集計の際にはわかりやすくグラフとして表す予定である。（学校評価委員会で検討中）